

川島宏治の プラス

1面から続く

「もともとホテルマン志望だったと聞きました。」

小さいころに家族旅行で東京のあるホテルによく泊まりました。そこで働く方々を見て、「この仕事をやってみたい」と思ったのです。就職氷河期世代でしたから、ホテルマンになるための近道として英語ができることを考えました。海外でホステタリティーを学びたいとの思いもあって、米国に留学しました。

「事業を継ぐきっかけは。頭の片隅にこの会社のことがあったのです。最終的にはマになった先代と話をし、そのタイミングで会社に戻りました。一当時はパチンコがコア事業だったのですか。パチンコが売り上げの90%以上を占めていましたね。トップになったらすぐに新規事業をやらうと考えた。財務体質の強化や人材育成が最優先だったので、まずはこれ

次に生かせれば挑戦は無駄ではない

らに取り組みました。少し落ち着いてきた段階で、パチンコとゲームが将来を安泰には保てない。面事業が基盤として機能しているうちに第3、第4の柱になる事業を育てることが必要だと考え、小さな流れでも始めようとして至っています。一新事業に対する自身の判断基準はありますか。いくつかの経験から、その事業に取り組み「パートナー」の肌感覚、お互いに経営者なので経営に対する考え方もあるでしょうが、リスクは覚悟している。過去には休止や事業自体をス



「挑戦する気持ちを持ち続け、新たな事業を増やしていきたい」と川島さん(左)語る平本さん

ひろもと・なつき 米ロチェスター工科大ホスピタリティマネジメント修士課程修了後、ディズニーフールドヒルトン、大阪ヒルトンを経て2004年ブローバホールディングスに入社。14年ブローバホールディングス社長、21年から現職。サンフレッチェ広島島の試合観戦で気分転換を図る。呉市出身。52歳。

ブローバホールディングス(広島市安佐南区)CEO 平本 直樹さん

川島宏治の プラス

ブローバホールディングス(白田)は1983年に広島市で設立し、パチンコ、ゲーム、ボウリングなどのアミューズメント事業を柱に成長してきた。最高経営責任者(CEO)の平本直樹さんの2人がトップに就任した2010年代からは多角化を推進。「パットを振らないことには始まらない。誰かいたら必ず習得する」と社内を鼓舞し、社員のアイデアを生かしながら多くの事業を拓



平本 直樹さん
できた。取り組みは、介護福祉支援やフィットネスジム、グランピング施設の運営。パチンコの製造、無償で提供の生産販売なども行っている。
「生活のあらゆる面で役に立つ企業でありたい」と語る平本さん。人々が求める豊かさが増える中、事業の理想や描いている将来像を聞いた。

<ブローバホールディングス> 本社は広島市安佐南区相田。グループの持ち株会社で、パチンコ事業を中心にゲーム、保険、カーリース、不動産管理、フィットネスジムなどを展開する。2024年にサウナ、書斎ラウンジ、フィットネスジムを備えた「パネット広島店」を中区に開業。売上高365億2千万円(24年8月期)。

営に対する考え方や事業に対する思いですね。それらが合っていないとうまくいかない。逆に考え方が合っていれば問題が多少あっても乗り越えられます。また、われわれの本業が強固であることが大前提で、ここが崩れていく中で挑戦しても、新しいことへの資本投入が難しくなる局面が出てきます。失敗する場面もあるでしょうが、リスクは覚悟している。過去には休止や事業自体をス

トップした例があります。それを次に生かす方向で捉えるならば挑戦自体は無駄ではないと思います。社内では、「まずは挑戦すること丸をあげよう。その上で成功すれば二重丸。たまた何も挑戦しない場合は三角たよ」と言い続けています。
一見迷走三振は駄目。そうなんです。とにかくパットを振らないと始まりません。一新型コロナウィルス禍に見舞われた際、従業員の皆さんはよく耐えて頑張られました。本場に頭が下がる思いでしたね。広島で店舗営業ができたのは緊急事態宣言が出た約3週間です。その間、収入がゼロになりましたが、それ以上社会的に多くのパッシングや批判を受けました。そうした声を日々聞くのがつらかったです。従業員は悔しい思いをしました。パチンコホールには、たはこの煙を換気するシステムが以前から備わっており、皆さんが考える以上に換気が優れている施設なのです。一「人々の生活を豊かにします」と明示した会社が目指す方

向性は、今の社会環境とよくマッチしていると感じます。もともと「遊びは生活のピタミン」というキャッチフレーズがありました。ただ、事業が広がりの遊みの範囲ではなく、新たな目標に目指す方向性を再定義したのです。生活のあらゆる部分に入り込み、起きてから寝るまでの間、さまざまな場面で行われる事業が役に立つような事業展開をしていくこと、パーパス(存在意義)を掲げました。
昔は物のせいとなく豊かさを味わいましたが、今は経験やソフト面が重要視されます。物質的な豊かさもあれば、精神的な豊かさもあります。お客様の豊かさも追求していきたいかなければいけないし、同時に従業員や地域社会の豊かさもそうです。場面ごとに「豊か」の捉え方が変わるのでなく、それぞれを受け止め方豊かさを定義してあげたい。

一プライベートの時間は。意識して設けるようにしています。休日には時間があれば近くのカフェに行ったり。ジムでいい汗をかいた後に入るサウナと風呂が一番の幸せかな。

ちよとCOMで10、16日に放送。時間は中国新聞などにて確認をお願いします。

2025年5月3日付
中国新聞 SELECT 1面および2面へ掲載
※転載については中国新聞社の許諾を得ています